

都市再生整備計画 事後評価シート

熊本市都心部地区

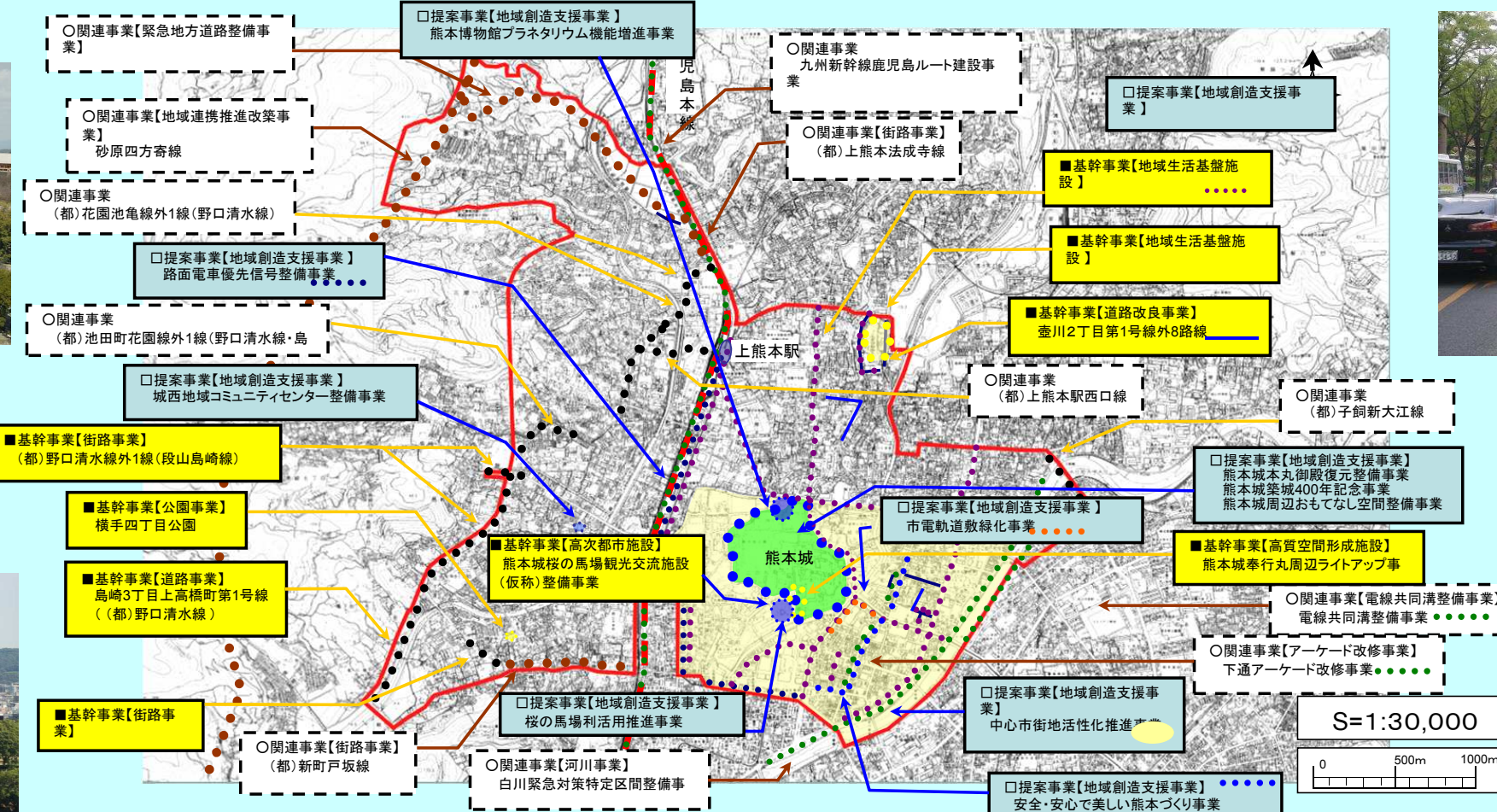
平成24年2月

熊本県熊本市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県		市町村名		熊本市		地区名		熊本市都心部地区			面積	890ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期		平成23年度		交付対象事業費		15071.5百万円	国費率	0.401			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
			基幹事業	【道路】野口清水線外1線(段山島崎線)、花園池亀線外1線(野口清水・池亀)、上熊本駅西口線、新町戸坂線、子飼新大江線、島崎3丁目上高橋町第1号線、壺川2丁目第1号線外8路線、【地域生活基盤施設】壺川地区浸水解消対策事業、セーフティ下水道事業、【高質空間形成施設】熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業										
	当初計画から削除した事業		提案事業	【地域創造支援事業】熊本城本丸御殿復元整備事業、熊本城築城400年記念事業、熊本城周辺おもてなし空間整備事業、中心市街地活性化推進事業、路面電車優先信号整備事業、城西地域コミュニティセンター整備事業、屋上等緑化助成事業										
			新たに追加した事業		基幹事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
	提案事業	なし					-			-				
	交付期間の変更		当初	平成19年度～平成23年度			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-				
			変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	熊本城入場者数	人/年	825,807	平成17年度	1,000,000	平成23年度	2,219,517	1,600,000	○	あり なし	熊本城本丸御殿復元整備事業、桜の馬場観光交流施設(城彩苑)整備事業など「熊本城」の魅力を更に高める事業の実施により、入場者数は格段に増加した。	平成24年4月	
	指標2	商店街歩行者通行量	人/日	248,509	平成18年度	275,000	平成23年度	224,476	229,000	△	あり なし	●商店街の歩行者通行量については、景気低迷による消費者動向の変化を予測できなかった事等により目標値を下回った。しかし周辺の通りなどにおいては、歩行者通行量が増加傾向にある箇所も見られることから、中心市街地活性化推進事業等の実施による効果は認められる。	平成24年12月	
	指標3	計画区域内居住人口	人	33,820	平成18年度	34,000	平成23年度	33,478	33,700	△	あり なし	●計画区域内居住人口は、これまでのところ目標値を下回っているが、浸水解消対策事業、セーフティ下水道事業等の実施と併せて計画区域内における集合住宅の建設も始まっていることから、1年以内に目標達成できると考えられる。	平成24年11月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	城彩苑入場者数	人/年	-	平成19年度				1,088,069			桜の馬場観光交流施設整備事業の実施により平成23年3月に「城彩苑」がオープンした。開業から約7ヵ月で年間目標100万人を達成し、本市の新たな観光スポットとして都心部地区の賑わい創出に寄与している。	平成24年4月	
	その他の数値指標2	市電利用者数	人/年	9,052,922	平成18年度				9,536,782			路面電車優先信号整備事業や市電軌道敷緑化事業、併せて150円均一料金にしたこと等により、市電利用者数は増加傾向にある。市電が市民の足として気軽に利用されることにより、都心部地区の賑わい向上に寄与していると認められる。	平成24年4月	
	その他の数値指標3	熊本城周遊バス「しろめぐりん」乗客数	人/年	53,810	平成18年度				82,145			熊本城築城400年記念事業の実施により、「しろめぐりん」が観光客の足として利用者数が大幅に増加した。結果、都心部地区の賑わい向上に寄与している。	平成24年4月	
4)定性的な効果発現状況	・熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業を行ったことにより、熊本城の新たな魅力を創出できたと同時に、夜間における周辺の安全性が高まり、夜間の観光客の増加や夜のジョギング・散歩コースの利用がみられるようになった。 ・城西地域コミュニティセンターの整備により、地域内の核となる施設が生まれたことで、地域活動の利用も活発に行われており、オープン後の利用者も増加した。 ・市電軌道敷緑化事業の実施により、まちなかに憩いと安らぎを演出することで、景観性が向上し、熊本城と一体化した緑の空間を形成することができた。													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		まちづくり交付金評価委員会からの意見聴取				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も必要に応じてモニタリングを行う。		
	住民参加プロセス		・道路整備事業や公園整備事業における住民説明会の実施 ・城西地域コミュニティセンター整備事業におけるワークショップの開催				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も必要に応じて説明会やワークショップ等を開催し、住民と連携したまちづくりをすすめていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築		・公園の維持管理に関する公園愛護会の設立 ・城西地域コミュニティセンター運営委員会の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も意見交換等を行いながら、連携したまちづくりを進めていく。		

様式2-2 地区の概要

熊本市都心部地区（熊本県熊本市）都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：城下町の歴史が息づく暮らしやすい環境の中で、九州中央の交流拠点都市にふさわしい多様な交流と賑わいのある都心部を形成する。 目標－1 森の都のシンボルであり、本市固有の地域歴史資源である熊本城の魅力を更に高め、また、その有効活用により多くの市民や来熊者が気軽に熊本城の歴史文化に触れる機会を創出し、観光・交流の拠点性向上を図る。 目標－2 都心部への交通アクセス性の向上を図るとともに、産・学・行政が連携して交流の場を創出し、都心部の魅力を高め、賑わいのある中心商店街を形成する。 目標－3 公共交通の利便性向上を図るとともに、安全・安心に暮らせる良好な生活環境の形成を図り、誰もが暮らしやすい居住空間		熊本城入場者数	単位：人／年	825,807	H17	1,000,000	H23	1,600,000	H23
		商店街歩行者通行量	単位：人／日	248,509	H18	275,000	H23	229,000	H23
		計画区域内居住人口	単位：人	33,820	H18	34,000	H23	33,700	H23
									
まちの課題の変化		・日本を代表する名城のひとつである熊本城の更なる魅力向上については、本丸御殿復元整備事業や桜の馬場観光交流施設「桜の馬場 城彩苑」の整備、また築城400年記念事業の開催等の効果により、入場者数は目標値を大幅に上回っている。今後、増加した入場者数を維持していくためには、櫓群の復元などによる継続的な魅力の創出に努めるとともに、距離的に近い中心商店街への回遊性の向上にも取り組む必要がある。 ・中心商店街の賑わいの回復については、街路事業や交通基盤整備事業、また活性化推進の各種イベントの実施、さらには関連事業として下通りアーケードの改修などを実施し、歩行者通行量は下げ止まりつつある傾向も見られるものの、目標値の達成は難しい状況である。経済情勢の低迷や空き店舗数の増加などマイナス要因もあることから、引き続き賑わいの創出に取り組む必要がある。 ・計画区域内の居住人口については、道路改良事業や浸水解消対策事業、公園の整備等を行うことで安全・安心な生活環境が整備され、居住人口の減少には歯止めがかかった。平成24年度には目標値も達成見込みであるが、今後は達成した居住人口を維持していくため、居住環境の保全や質の向上などへの取り組みが必要となってきている。							
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）		・平成23年3月に九州新幹線が全線開業し、今後も観光客の増加が見込まれている。本丸御殿の復元整備等による熊本城への入場者数の増加を一過性に終わらせないためにも、引き続き熊本城の復元整備を継続するなど、「城下町の魅力あふれるまちづくり」をめざした取り組みを進めていく。 ・中心商店街の空き店舗数の増加に歯止めをかける対策を行うとともに、市街地の再開発事業や道路整備を着実に進展させ、都市機能のさらなる集積と更新を図る。また、九州中央に位置するという地理的特性を活かしながら、来街者の増加を促すイベント等を積極的に実施し、「人々が活発に交流しにぎわうまちづくり」をめざした取り組みを進めていく。 ・現在の居住人口を維持していくためには、質のよい居住環境を形成していく必要があるため、引き続き道路整備、街路事業、屋上緑化の助成事業、公園の整備などに取り組む、安全で安心な生活環境の向上をめざす。							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

~~(7) 有識者からの意見聴取~~

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	野口清水線外1線(段山島崎線)	1,635	約1,210m	1,592.0	約1,210m	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
道路	花園池亀線外1線(野口清水・池亀)	1,780	約575m	2,215.8	約1,195m	事業計画見直しに伴う事業費の増加	事業の規模を拡大することにより、目標達成にプラスの効果があると考えられるが、目標及び指標は据え置く。	—	—
道路	上熊本駅西口線	1,305	約485m	370.0	約485m	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	—	—
道路	新町戸坂線	290	約270m	315.2	約270m	事業計画見直しに伴う事業費の増加	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	—	—
道路	子飼新大江線	6,530	約490m	4,482.0	約490m	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	—	—
道路	池田町花園線外1線	—	—	526.0	約770m	平成20年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが、目標及び指標は据え置く。	—	—
道路	島崎3丁目上高橋町第1号線	650	約1,500m	640.0	約720m	事業計画見直しに伴う事業内容の変更	事業計画の見直しにより、事業規模は縮小したが目標達成に関連はないため、目標及び指標への影響はないと考えられる。	●	
道路	壺川2丁目第1号線外8路線	150	外7路線約2,312m	73.8	外8路線約2,258m	事業計画見直しに伴う事業内容の変更	事業の規模を拡大することにより、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
公園	横手四丁目公園	—	—	283.8	約2,708㎡	平成19年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	壺川地区浸水解消対策事業	515	0.48km ²	297.2	0.48km ²	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
	セーフティ下水道事業	125	約500箇所	125.4	約500箇所	なし	—	●	
高質空間形成施設	熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業	30	約4箇所	28.3	約4箇所	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
高次都市施設	熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)整備事業	—	—	1,957.5	約3,350㎡	平成20年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが、目標及び指標は据え置く。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	熊本城本丸御殿復元整備事業	1039	約2,161㎡	1,039.5	約2,161㎡	なし	-	●	
	熊本城築城400年記念事業	278	5回、36人乗り	220.8	5回、36人乗り	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
	熊本城周辺おもてなし空間整備事業	16	2箇所	14.6	2箇所	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
	中心市街地活性化推進事業	144	—	36.0	—	事業計画の見直しによる事業費の減額修正	事業計画の見直しにより、事業規模は縮小したが目標達成に関連はないため、目標及び指標への影響はないと考えられる。	●	
	路面電車優先信号整備事業	65	約2.9km	15.7	約2.9km	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
	城西地域コミュニティセンター整備事業	58	約250㎡	50.3	約250㎡	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
	屋上等緑化助成事業	55	5件/年程度	45.4	5件/年程度	事業費精査の結果減額修正	事業費の変更はあったものの、事業は実施しており目標及び指標への影響はないものとする。	●	
	桜の馬場利活用推進事業	—	—	25.7	—	平成19年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
	安全・安心で美しい熊本づくり事業	—	—	44.0	—	平成19年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
	市電軌道敷緑化事業	—	—	284.3	—	平成20年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
	熊本博物館プラネタリウム機能増進事業	—	—	426.8	—	平成21年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
	地下水都市熊本空間創出事業	—	—	10.4	—	平成21年度に計画変更して追加	事業を追加することで、目標達成にプラスの効果があると考えられるが目標及び指標は据え置く。	●	
事業活用調査	事業効果分析	5	—	0.0	—	委託によらず市で自ら行うこととしたため削除	影響なし	—	—
まちづくり 活動推進事業	賑わいと憩いの空間づくり推進事業	10	—	0.0	—	同様の事業が民間団体により実施されたため削除	事業実施主体の変更のみだったため影響なし	—	—
	まちづくり活動啓発事業	5	—	0.0	—	同様の事業が民間団体により実施されたため削除	事業実施主体の変更のみだったため影響なし	—	—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
電線共同溝整備事業		城東地区	150	—	平成18年度～平成19年度	平成18年度～平成19年度	順調に進み、完了した。	
下通アーケード改修事業		中心商店街	900	—	平成20年度～平成22年度	平成20年度～平成22年度	順調に進み、完了した。	
街路事業		新町戸坂線外3路線	14,171	—	平成13年度～平成27年度	平成13年度～平成27年度	順調に進んでいる。	
白川緊急対策特定区間整備事業		八城橋～龍神橋	35,000	—	平成15年度～平成24年度	平成15年度～平成24年度	順調に進んでいる。	
九州新幹線鹿児島ルート建設事業		博多～新八代間	790,000	—	平成9年度～平成22年度	平成9年度～平成22年度	順調に進み、完了した。	
連続立体交差事業		JR鹿児島本線	55,000	—	平成14年度～平成28年度	平成14年度～平成28年度	順調に進んでいる。	
花園池亀線外1線(野口清水・池亀)			3,044	—	平成23年度～平成25年度	平成23年度～平成25年度	順調に進んでいる。	
上熊本駅西口線			1,667	—	平成23年度～平成25年度	平成23年度～平成25年度	順調に進んでいる。	
子飼新大江線			2,001	—	平成23年度～平成25年度	平成23年度～平成25年度	順調に進んでいる。	
池田町花園線外1線			2,690	—	平成23年度～平成25年度	平成23年度～平成25年度	順調に進んでいる。	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	熊本城入場者数	人/年	熊本城入場者数の統計表(熊本城総合事務所)を参照し、平成23年4月時点までの熊本城の入場者数の傾向から、評価基準日における評価値(見込み)を推計する。	895,928	H9	825,807	H17	1,000,000	H23	モニタリング	H20	2,219,517	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	1,600,000	事後評価	○		
指標2	商店街歩行者通行量	人/日	平成23年8月19(金)・21日(日)における中心商店街(計5箇所)の12時間通行量(歩行者・自転車)の合計を集計し、評価値(見込み)とする。	344,301	H9	248,509	H18	275,000	H23	モニタリング	H21	224,476	モニタリング	△		●
										事後評価	確定 見込み ●	229,000	事後評価	△		
指標3	計画区域内居住人口	人	統計課作成の統計調査表を参照し、平成23年9月までの人口傾向から評価基準日における評価値(見込み)を推計する。	33,707	H10	33,820	H18	34,000	H23	モニタリング	H21	33,478	モニタリング	△	●	
										事後評価	確定 見込み ●	33,700	事後評価	△		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	熊本城本丸御殿復元整備事業、桜の馬場観光交流施設(城彩苑)整備事業など「熊本城」の魅力を更に高める事業の実施により、入場者数は格段に増加した。	-
指標2	商店街の歩行者通行量については、景気低迷による消費者動向の変化を予測できなかった事等により目標値を下回った。しかし周辺の通りにおいて、歩行者通行量が増加傾向にある箇所も見られることから、中心市街地活性化推進事業等の実施による効果は認められる。	-
指標3	計画区域内居住人口は、これまでのところ当初の目標値を下回っているが、浸水解消対策事業、セーフティ下水道事業等の実施と併せて計画区域内における集合住宅の建設も始まっていることから、1年以内に目標達成できると考えられる。	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	城彩苑入場者数	人/年	熊本市観光振興課に確認し、平成23年10月末時点の入場者数を把握する。	-	-	-	H19	モニタリング			城彩苑入場者数により、都心部の魅力向上や観光・交流の拠点性の向上を説明する。	指標1、2を補完
								事後評価	確定 見込み	● 1,088,069		
その他の 数値指標2	市電利用者数	人/年	平成23年4月に熊本市交通局に確認し、平成22年度の利用者数を把握する。	-	-	9,052,922	H18	モニタリング			市電の利用者数により都心部地区のにぎわい向上に寄与していることを説明する。	指標2を補完
								事後評価	確定 見込み	● 9,536,782		
その他の 数値指標3	熊本城周遊バス「しろめぐりん」乗客数	人/年	熊本市交通政策総室に確認し、平成22年度の利用者数を把握する。	-	-	53,810	H18	モニタリング			しろめぐりん利用者数により、都心部の魅力向上や観光・交流の拠点性の向上を説明する。	指標1、2を補完
								事後評価	確定 見込み	● 82,145		
その他の 数値指標4	熊本博物館プラネタリウム観覧者数	人/年	熊本市博物館に確認し、平成22年度のプラネタリウム観覧者数を把握する。	-	-	39,453	H20	モニタリング			プラネタリウム観覧者数により、都心部の魅力向上や観光・交流の拠点性の向上を説明する。	指標1、2を補完
								事後評価	確定 見込み	● 30,137		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業を行ったことにより、熊本城の新たな魅力を創出できたと同時に、夜間における周辺の安全性が高まり、夜間の観光客の増加や夜のジョギング・散歩コースの利用がみられるようになった。
- ・城西地域コミュニティセンターの整備により、地域内の核となる施設が生まれたことで、地域活動の利用も活発に行われており、オープン後の利用者也増加した。
- ・市電軌道敷緑化事業の実施により、まちなかに憩いと安らぎを演出することで、景観性が向上し、熊本城と一体化した空間を形成することができた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり交付金評価委員会からの意見聴取を行った。評価委員会においては、次の事項を行った。 ・都市再生整備計画書に記載の事業概要説明 ・指標の達成状況の確認 ・事業に対する見直し等の意見	予定どおり実施した	● 【実施頻度】H21年度に1回 【実施時期】H22年3月 【実施結果】数値指標の一つである「熊本城の入場者数」については、H19年度・H20年度ともに目標値を超えている。築城400年記念事業や本丸御殿復元整備事業等の実施により、熊本城の魅力を更に高めることができた結果であると確認した。	今後も必要に応じてモニタリングを行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
道路整備事業や公園整備事業における住民説明会の実施、城西校区コミュニティセンター整備事業におけるワークショップの開催	予定どおり実施した	● 【実施頻度】道路整備はH19年度から、公園整備はH20年度から年1回程度、コミュニティセンター整備はH19年度に4回 【実施時期】H19年度(道路整備・コミュニティセンター整備)・H20年度(公園整備)から毎年度 【実施結果】各事業の概要等について、地域住民の理解を得ることができた。	今後も必要に応じて説明会やワークショップ等を開催し、住民と連携したまちづくりをすすめていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
・公園愛護会の設立 ・運営委員会の設立	予定どおり実施した	● 地域の自主的、主体的なまちづくり推進のための検討組織を立ち上げた。	・横手四丁目公園愛護会 ・城西地域コミュニティセンター運営委員会	今後も意見交換等を行いながら、連携したまちづくりを進めていく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内担当者連絡会議	関係課の担当職員	平成23年11月9日	都心活性推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		その他指標1		その他指標2	
指 標 名		熊本城入場者数		計画区域内居住人口		城彩苑入場者数		市電利用者数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	街路事業(野口清水線他1線)	-	熊本城本丸御殿復元整備事業、桜の馬場観光交流施設(城彩苑)整備事業など「熊本城」の魅力を更に高める事業の実施により、入場者数は格段に増加した。	○	計画区域内居住人口は、これまでのところ当初の目標値を下回っているが、浸水解消対策事業、セーフティ下水道事業等の実施と併せて計画区域内における集合住宅の建設も始まっていることから、1年以内に目標達成できると考えられる。	-	桜の馬場観光交流施設整備事業の実施により平成23年3月に「城彩苑」がオープンした。開業から約7ヵ月で年間目標100万人を達成し、本市の新たな観光スポットとして都心部地区の賑わい創出に寄与している。	-	路面電車優先信号整備事業や市電軌道敷緑化事業、併せて150円均一料金にしたこと等により、市電利用者数は増加傾向にある。市電が市民の足として気軽に利用されることにより、都心部地区の賑わい向上に寄与していると認められる。
	街路事業(花園池亀線外1線)	-		○		-		-	
	街路事業(上熊本駅西口線)	-		○		-		○	
	街路事業(新町戸坂線)	-		○		-		○	
	街路事業(子飼新大江線)	-		○		-		-	
	街路事業(池田町花園線外1線)	-		○		-		-	
	道路事業(島崎3丁目上高橋町第1号線)	-		○		-		-	
	道路事業(壺川12丁目第1号線外8路線)	-		○		-		-	
	公園事業(榎手4丁目公園)	-		◎		-		-	
	地域生活基盤施設(壺川地区浸水解消対策事業)	-		◎		-		○	
	地域生活基盤施設(セーフティ下水道事業)	-		◎		-		-	
	高質空間形成施設(熊本城参行丸周辺ライトアップ事業)	◎		-		-		○	
	高次都市施設(熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)整備事業)	◎		-		◎		○	
	地域創造支援事業(熊本城本丸御殿復元整備事業)	◎		-		◎		○	
提案事業	地域創造支援事業(熊本城築城400年記念事業)	◎		-		◎		○	
	地域創造支援事業(熊本城周辺おもてなし空間整備事業)	◎		-		◎		○	
	地域創造支援事業(中心市街地活性化推進事業)	○		-		○		○	
	地域創造支援事業(路面電車優先信号整備事業)	○		-		○		◎	
	地域創造支援事業(城西地域コミュニティセンター整備事業)	-		◎		-		-	
	地域創造支援事業(屋上緑化助成事業)	-		○		-		-	
	地域創造支援事業(桜の馬場活用推進事業)	◎		-		○		○	
	地域創造支援事業(安全・安心で美しい熊本づくり事業)	○		-		○		◎	
	地域創造支援事業(市電軌道敷緑化事業)	○		-		○		◎	
	地域創造支援事業(熊本博物館フラネリウム機能増進事業)	○		-		○		○	
関連事業	地域創造支援事業(地下水都市熊本空間創出事業)	○		-		○		○	
	電線共同溝整備事業	-		○		-		○	
	下道アーケード改修事業	-		-		○		○	
	街路事業(新町戸坂線外3路線)	-		○		-		○	
	白川緊急対策特定区間整備事業	-		○		-		-	
	九州新幹線鹿児島ルート建設事業	○		-		○		-	
	連続立体交差事業	○		-		-		-	
	街路事業(花園池亀線外1線)	-		○		-		-	
	街路事業(上熊本駅西口線)	-		○		-		-	
	街路事業(子飼新大江線)	-		○		-		-	
	街路事業(池田町花園線外1線)	-		○		-		-	

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	熊本城桜の馬場観光交流施設(城彩苑)の整備事業も好評であるため、今後は入場者数の増加を一過性に終わらせないよう、熊本城と城彩苑との回遊性の向上を図りながら事業を実施していく。	計画エリア内への大型集合住宅の建設については、今後、多くは望めないと考えられるため、エリア内に居住している方々の生活環境の向上を更に進めていくことにより、居住人口の安定化を図る。	九州新幹線が全線開業し、今後も観光客の増加が見込まれる。熊本城や中心商店街でのイベント等と連携し更なる賑わいの向上を図る。	九州新幹線全線開業による市電利用者数の増加が見込まれるため、利便性の向上に努め、更なる賑わい創出を図る。
-------	---	---	---	--

添付様式4ー② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他指標3		その他指標4			
指 標 名		熊本城周遊バス「しろめぐりん」 乗客数		熊本博物館フラネリウム観覧者 数			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	街路事業(野口清水線他1線)	-	熊本城築城400年記念事業の実施により、「しろめぐりん」が観光客の足として利用者数が大幅に増加した。結果、都心部地区の賑わい向上に寄与している。	-	熊本博物館フラネリウム機能増進事業の実施により、工事期間中でもあった平成22年度については一時的に観覧者が減少した。しかし、平成23年3月のリニューアルオープン以降は、前年上半期の2倍を超える約56,000人の観覧者が来場しており、都心部地区の賑わい向上に寄与している。		
	街路事業(花園池亀線外1線)	-		-			
	街路事業(上熊本駅西口線)	-		-			
	街路事業(新町戸坂線)	-		-			
	街路事業(子飼新大江線)	-		-			
	街路事業(池田町花園線外1線)	-		-			
	道路事業(島崎3丁目上高橋町第1号線)	-		-			
	道路事業(壺川2丁目第1号線外8路線)	-		-			
	公園事業(横手4丁目公園)	-		-			
	地域生活基盤施設(壺川地区浸水解消対策事業)	-		-			
	地域生活基盤施設(セーフティ下水道事業)	-		-			
	高質空間形成施設(熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業)	◎		○			
	高次都市施設(熊本城校の馬場観光交流施設(仮称)整備事業)	◎		○			
提案事業	地域創造支援事業(熊本城本丸御殿復元整備事業)	◎		○			
	地域創造支援事業(熊本城築城400年記念事業)	◎		○			
	地域創造支援事業(熊本城周辺おもてなし空間整備事業)	◎		○			
	地域創造支援事業(中心市街地活性化推進事業)	○		○			
	地域創造支援事業(路面電車優先信号整備事業)	○		○			
	地域創造支援事業(城西地域コミュニティセンター整備事業)	-		-			
	地域創造支援事業(屋上緑化助成事業)	-		-			
	地域創造支援事業(桜の馬場利活用推進事業)	○		○			
	地域創造支援事業(安全・安心で美しい熊本づくり事業)	○		○			
	地域創造支援事業(市電軌道敷緑化事業)	○		○			
	地域創造支援事業(熊本博物館フラネリウム機能増進事業)	○		◎			
	地域創造支援事業(地下水都市熊本空間創出事業)	○		○			
	関連事業	電線共同溝整備事業		-			-
下通アーケード改修事業		○	○				
街路事業(新町戸坂線外3路線)		-	-				
白川緊急対策特定区間整備事業		-	-				
九州新幹線鹿児島ルート建設事業		○	-				
連続立体交差事業		-	-				
街路事業(花園池亀線外1線)		-	-				
街路事業(上熊本駅西口線)		-	-				
街路事業(子飼新大江線)		-	-				
街路事業(池田町花園線外1線)		-	-				
※指標改善への貢献度 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。							
今後の活用		H23.3九州新幹線全線開業により、今後も観光客の増加が見込まれている。熊本駅から熊本城、中心商店街への利用者を更に増加させていくため「しろめぐりん」の利用促進を図っていく。		熊本博物館フラネリウム観覧者数が大幅に増加していることから、今後は観覧者数の増加を一過性に終わらせないため、上映プログラムを工夫し、更なる賑わい向上に努める。			

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2											
指 標 名		商店街歩行者通行量											
種別	事業名・箇所名	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類	目標 未達成への 影響度	総合所見	要因の 分類
基幹事業	街路事業(野口清水線他1線)	-	商店街の歩行者通行量については、景気低迷による消費者動向の変化を予測できなかった事等により当初の見込値を下回った。しかし、裏通りを中心に歩行者通行量が増加傾向にある箇所も見られることから、中心市街地活性化推進事業等の実施による効果は認められる。	Ⅲ									
	街路事業(花園池亀線外1線)	-											
	街路事業(上熊本駅西口線)	-											
	街路事業(新町戸坂線)	-											
	街路事業(子飼新大江線)	-											
	街路事業(池田町花園線外1線)	-											
	道路事業(島崎3丁目上高橋町第1号線)	-											
	道路事業(壺川2丁目第1号線外8路線)	-											
	公園事業(横手4丁目公園)	-											
	地域生活基盤施設(壺川地区浸水解消対策事業)	-											
	地域生活基盤施設(セーフティ下水道事業)	-											
	高質空間形成施設(熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業)	△											
提案事業	高次都市施設(熊本城校の馬場観光交流施設(仮称)整備事業)	△											
	地域創造支援事業(熊本城本丸御殿復元整備事業)	△											
	地域創造支援事業(熊本城築城400年記念事業)	△											
	地域創造支援事業(熊本城周辺おもてなし空間整備事業)	△											
	地域創造支援事業(中心市街地活性化推進事業)	△											
	地域創造支援事業(路面電車優先信号整備事業)	-											
	地域創造支援事業(城西地域コミュニティセンター整備事業)	-											
	地域創造支援事業(屋上緑化助成事業)	-											
	地域創造支援事業(桜の馬場利活用推進事業)	△											
	地域創造支援事業(安全・安心で美しい熊本づくり事業)	△											
	地域創造支援事業(市電軌道敷緑化事業)	△											
	地域創造支援事業(熊本博物館フラネリウム機能増進事業)	△											
関連事業	地域創造支援事業(地下水都市熊本空間創出事業)	△											
	電線共同溝整備事業	-											
	下通アーケード改修事業	△											
	街路事業(新町戸坂線外3路線)	-											
	白川緊急対策特定区間整備事業	-											
	九州新幹線鹿児島ルート建設事業	-											
	連続立体交差事業	-											
	街路事業(花園池亀線外1線)	-											
	街路事業(上熊本駅西口線)	-											
	街路事業(子飼新大江線)	-											
	街路事業(池田町花園線外1線)	-											

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	中心商店街の空き店舗数の増加に歯止めをかける対策を行うとともに、市街地の再開発事業や道路整備を着実に進展させ、都市機能のさらなる集積と更新を図る。また、九州中央に位置するという地理的特性を活かしながら、来街者の増加を促すイベント等を積極的に実施し、「人々が活発に交流しにぎわうまちづくり」をめざした取り組みを進めていく。												
------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内担当者連絡会議	関係課の担当職員	平成23年11月9日	都心活性推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
熊本城の魅力を広く発信することにより、観光・交流の拠点性を高める。	本丸御殿の復元整備や築城400年記念事業(イベント)等の開催により、県内外の方々に熊本城の魅力を発信することができた。		熊本城を観光・交流拠点として、熊本城～中心商店街への回遊性の向上を図る。
交通基盤施設の整備による来街者の利便性の向上を図るとともに、産・学・行政の連携によるまちづくりを強化し、賑わいの回復を図る。	中心市街地周辺の街路整備やアーケード改修、産・学・行政の連携によるイベント等の実施により、中心商店街の賑わいも回復の兆しが見え始めている。	経済情勢の低迷や空き店舗数の増加などマイナス要因もあることから、引き続き賑わいの創出に取り組む必要がある。	
暮らしやすい都市型居住地としてのまちづくりを促進する。	浸水対策事業や公園の整備等を行うことにより、安全で安心な生活環境の向上が図られている。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	熊本城の魅力を発信	引き続き、熊本城の魅力を県内外に広く発信することによって、来熊者の増加を図る。	・熊本城を中心としたイベントの開催 ・観光案内版等の整備
	誰もが暮らしやすい居住空間の創出	生活環境の向上に伴って、地区内への居住促進を図る。	・浸水対策事業の実施 ・地区内への居住促進に向けた事業の実施
	中心市街地の賑わいの回復	産・学・行政の連携による、賑わいあるまちづくりを促進する。	・中心市街地活性化基本計画の推進に係る検討

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中心商店街の更なる賑わいの創出	熊本城を拠点として、平成23年3月にオープンした観光交流施設(城彩苑)と中心商店街との回遊性を向上させることにより、中心商店街のにぎわいの創出へつなげる。	・熊本城～中心商店街一体的に行うイベントの開催 ・シャトルバスの運行
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・平成23年3月に九州新幹線が全線開業し、今後も観光客の増加が見込まれている。本丸御殿の復元整備等による熊本城への入場者数の増加を一過性に終わらせないためにも、引き続き熊本城の復元整備を継続するなど、「城下町の魅力あふれるまちづくり」をめざした取り組みを進めていく。

・中心商店街の空き店舗数の増加に歯止めをかける対策を行うとともに、市街地の再開発事業や道路整備を着実に進展させ、都市機能のさらなる集積と更新を図る。また、九州中央に位置するという地理的特性を活かしながら、来街者の増加を促すイベント等を積極的に実施し、「人々が活発に交流しにぎわうまちづくり」をめざした取り組みを進めていく。

・現在の居住人口を維持していくためには、質のよい居住環境の形成を進めていく必要があるため、引き続き道路整備、街路事業、屋上緑化の助成事業、公園の整備などに取り組み、安全で安心な生活環境の向上をめざす。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			単位	従前値		目標値		評 価 値			目標 達成度	1年以内の 達成見込みの 有無		フォローアップ計画		
				年度		年度						予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	熊本城入場者数	人/年	825,807	H17	1,000,000	H23	確定 見込み	●	1,600,000	○	あり なし	→	平成24年4月	平成24年4月に熊本城総合事務所へ確認を行い、平成23年度分のデータを把握し確定値とする。		
指標2	商店街歩行者通行量	人/日	248,509	H18	275,000	H23	確定 見込み	●	229,000	△	あり なし	●	→	平成24年12月	平成24年10月に熊本市商工振興課が行う商店街歩行者通行量調査のデータを把握し確定値とする。	
指標3	計画区域内居住人口	人	33,820	H18	34,000	H23	確定 見込み	●	33,700	△	あり なし	●	→	平成24年11月	平成24年11月に熊本市統計課が作成する人口統計表のデータを把握し確定値とする。	
指標4				H		H	確定 見込み				あり なし	→				
指標5				H		H	確定 見込み				あり なし	→				

その他の 数値指標1	城彩苑入場者数	人/年	-	H19		確定	●	1,088,069			→	平成24年4月	平成24年4月に熊本市観光振興課へ確認を行い、平成23年度分のデータを把握し、確定値とする。	
						見込み								
その他の 数値指標2	市電利用者数	人/年	9,052,922	H18		確定	●	9,536,782			→	平成24年4月	平成24年4月に熊本市交通局へ確認を行い、平成23年度分のデータを把握し、確定値とする。	
						見込み								
その他の 数値指標3	熊本城周遊バス「しろめぐりん」乗客数	人/年	53,810	H18		確定	●	82,145			→	平成24年4月	平成24年4月に熊本市交通政策総室へ確認を行い、平成23年度分のデータを把握し、確定値とする。	
						見込み								
その他の 数値指標4	熊本博物館プラザ タリウム観覧者数	人/年	39,453	H20		確定	●	30,137			→	平成24年4月	平成24年4月に熊本市博物館へ確認を行い、平成23年度分のデータを把握し、確定値とする。	
						見込み								

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、計画期間途中で事業の効果を確認することができた。	今後、都市再生整備計画を策定しようとする場合、計画策定の準備段階から有識者の意見を反映できるよう、評価委員会の開催について検討する必要がある。
	うまく いかなかった点	計画策定当時、「商店街歩行者通行量」については、下通アーケード改修事業や中心市街地活性化推進事業等の実施により増加傾向に転じると見込んでいた。これらの事業による効果はあったものの、経済情勢の低迷や空き店舗数の増加など、予見が困難な要因があったため、想定していた成果があがらなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	採用した指標については、事業の効果を具体的に表すものとして整合性がとれている。	
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		市の広報誌(市政だより)への掲載の検討や、ホームページでの市民にとってわかりやすい掲載方法を工夫するなど、積極的な住民参加を促す必要がある。
	うまく いかなかった点	事後評価原案の住民からの意見聴取については、ホームページへの掲載や情報公開窓口での閲覧だけでは市民への周知が難しく、意見がなかなか出なかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	採用した指標は、本市の関係課において毎年度数値が整理されているので、モニタリングを比較的容易に実施することができた。	
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点	特になし。	
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後の都市再生整備計画の活用予定
熊本市都心部地区の2期目の策定予定は今のところないが、今後は社会資本整備総合交付金事業として、ハード・ソフト両事業に重点を置いたまちづくりを推進していく予定である。
- ・今後事後評価を予定している地区
本市においては、平成25年度に第2期植木中央地区において事後評価を実施する予定である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	熊本市のホームページに掲載	平成23年11月28日～平成23年12月12日(15日間)	平成23年11月28日～平成23年12月12日(15日間)	電子メール、FAX、郵送	都心活性推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	市政情報プラザでの閲覧	平成23年11月28日～平成23年12月12日(15日間)	平成23年11月28日～平成23年12月12日(15日間)		

住民の意見	特になし
-------	------

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	東海大学大学院工学研究科長 渡辺 千賀恵 熊本大学工学部准教授 田中 智之 崇城大学工学部建築学科 講師 西郷 正浩	第1回 平成23年11月8日 第2回 平成23年12月20日	都市建設局 都心活性推進課	設置条例	独自に設置
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って適切に事後評価が実施されたことが確認された。
	成果の評価	・評価結果については、了承された。 ・熊本城本丸御殿整備事業や桜の馬場観光交流施設(仮称)整備事業等による熊本城入場者数の増加等の効果を成果として出す必要があるとの意見が出された。
	実施過程の評価	・実施過程については、適切であると確認された。
	効果発現要因の整理	・中心市街地の賑わいが線から面へと移り変わっている。歩行者通行量の減少については、計画策定当初見込んでいた数値を下回っているが、そのことだけで都心部地区の賑わいが低下しているとは判断できないとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・ホームページでの公表について妥当であると認められた。
	その他	・「その他の数値指標」の博物館プラネタリウム観覧者数について、従前値に対し評価値が下がっているように見えるため、一見しただけでは効果が分かりづらい、との意見があった。 →対応策として、それぞれの数値に上半期・下半期の内訳を入れたらどうか、とのアドバイスがあり、そのように修正を行うことで工事期間中の観覧者数の減少が分かるようにした。 ・「定性的な効果発現状況」について、何らかのデータや根拠に基づき記載し、効果の事実を述べるようにすべき、との指摘があった。 →記載内容について、委員からのアドバイスに基づき修正を行った。
今後のまちづくりについて審議	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
	今後のまちづくり方策の作成	・熊本城のさらなる魅力創出と中心商店街の賑わいの回復についての方策については了承された。 ・計画区域内の居住人口については、少子高齢化が進む中、今後さらに増加させていくことは困難であると予想されるため、これからは現在の居住人口を維持していくため、利便性や居住環境の向上などについての取り組みを考えていくべき、との委員からのアドバイスに基づき修正を行った。
	フォローアップ	・フォローアップ計画に基づき実施することを確認した。
	その他	・まちの課題の変化について、増加した熊本城の入場者数については、今後はそのことを維持させるような取り組みを行うとともに、人の流れを中心商店街へと広めていくためにはどうするかが課題である、との意見に基づき修正を行った。
その他	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
		・特になし。

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第6回変更)

くまもと し と し ん ぶ ち く
熊本市都心部地区

熊本県 熊本市

平成23年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	熊本市	地区名	熊本市都心部地区	面積	890 ha
計画期間	平成19年度～平成28年度	交付期間	平成19年度～平成23年度				

目標
大目標：城下町の歴史が息づく暮らしやすい環境の中で、九州中央の交流拠点都市にふさわしい多様な交流と賑わいのある都心部を形成する。 目標－1 森の都のシンボルであり、本市固有の地域・歴史資源である熊本城の魅力を更に高め、また、その有効活用により多くの市民や来熊者が気軽に熊本城の歴史文化に触れる機会を創出し、観光・交流の拠点性向上を図る。 目標－2 都心部への交通アクセス性の向上を図るとともに、産・学・行政が連携して交流の場を創出し、都心部の魅力を高め、賑わいのある中心商店街を形成する。 目標－3 公共交通の利便性向上を図るとともに、安全・安心に暮らせる良好な生活環境の形成を図り、誰もが暮らしやすい居住空間を創出する。
目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・熊本市都心部は、17世紀始め、加藤清正が熊本平野に延びる京町台地の先端、茶臼山に熊本城を構え、城下町を形成したことを起源とし、これまでの歴史的経緯の中で、行政、業務、商業等の様々な都市機能が集積し、西日本有数のアーケード街を有するなど「熊本の顔」として、また、武者返しとして有名な熊本城へ多くの観光客が訪れるなど観光地としても発展してきた。 ・しかしながら、その本市のシンボルである熊本城の入場者数も、観光に対する需要が多様化し、海外旅行の増加や国内旅行においてもテーマパークや温泉地等へシフトしていることなどから減少傾向にあり、ピーク時から半減している状況にある。 ・そのような中、平成19年の築城400年を契機として、お城の魅力向上を図るため、築城当時の威容を現代に蘇らせようと復元整備事業に着手しており、これまで、飯田丸五階櫓の復元が完了し、現在、本丸御殿大広間の復元に取り組んでいる。(まちづくり総合支援事業) ・また、アーケード街を中心とした中心商店街においても、モータリゼーションの進展に伴う市街地の拡大や人々の生活様式が多様化、さらには、病院など公共公益施設の郊外移転により、商業活力の低下が懸念されている。特に、近年の大規模商業施設の郊外立地により確実に来街者数が減少している状況である。 ・そのようなことから、これまで個別に活動してきた商店街がひとつに纏まりを見せ、また、熊本大学工学部の出張研究室「まちなか工房」が開設され、地域の方々や行政合同による勉強会の開催など産・学・行政の連携によるまちづくり活動が展開されている。 ・さらには、ひとつに纏まった商店街を中心として、お城まつりに合わせた各種イベントの開催が盛んに行われるようになった。 ・また、当該地域では、以前は地理的優位性から多くの居住者が生活していたが、市街地の拡大などとともに人口が減少している。 ・これらの地域は、旧来から市街地であったため一定の都市基盤は整備されているものの、都市型水害が発生する地区があるなど、生活環境上の問題もある地域である。
課題
○平成23年春に九州新幹線鹿児島ルートの中線開業が予定されているなか、本市が九州の中央に位置するという地理的優位性を最大限に活かし、魅力ある交流拠点都市として成長していくためには、広域結節拠点となる副都心部(熊本駅周辺地区)の基盤整備を行うとともに、熊本城をシンボルとする都心部の魅力と活力の創出に取り組むことが喫緊の課題である。 ・本市のシンボルであり、また、日本を代表する歴史資源である熊本城について、現在、築城400年に向け復元整備を進めている。近年、観光客のニーズが体験型や歴史資源を見直す傾向にある中で、これを機に、熊本城の魅力を広く発信することによって、観光・交流の拠点性を高める必要がある。 ・商業、業務、居住等の都市機能が集積され「熊本の顔」として発展してきた中心商店街については、大規模商業施設の郊外立地等による来街者の減少に歯止めをかけるため、交通基盤施設の整備による来街者の利便性向上を図るとともに、産・学・行政の連携によるまちづくりを更に強化し、賑わいの回復を図る必要がある。 ・都心部の持続的な発展のためには、居住人口の減少に歯止めをかける必要がある。そのためには、良好な生活環境の形成を図るとともに、公共交通の利便性向上を図るなど高齢者を含むすべての人々が暮らしやすい都市型居住地としてのまちづくりを促進する必要がある。
将来ビジョン(中長期)
○都市の将来像として、熊本城を中心とした都心部から周辺へ諸機能が段階的に立地する秩序ある市街地の構造を目指す。 ・「第5次熊本市総合計画」では、「人々が集う森の都づくり」がまちづくりの重点的取り組みとして位置づけられており、「熊本城を核とした歴史的景観の整備、活用」「魅力ある交流拠点の形成」「広域交流のための基盤整備の促進」に取り組むとされている。 ・また、平成16年に策定された「まちづくり戦略計画」では、熊本城の復元整備とその有効活用や、街なかの賑わい創出など「熊本城を活かした魅力ある都心の形成」を図ることとしている。 ・熊本市都市マスタープラン」では、都心部を熊本城を中心とした魅力ある商業地として、また、今後も九州や熊本県における業務活動を支える主要な業務地として位置づけ、更なる機能の拡充又は更新を図ることとしている。 ・熊本市都市マスタープラン」では、熊本駅、上熊本駅、水前寺駅などJR線の主要駅や内環状道路に囲まれた地域について、利便性の高い都市空間として、集積されてきた各種の都市機能の維持又は更新を図ることとしている。 ・また、将来の超高齢化社会や少子化を睨み、誰もが安心して暮らしやすいコンパクトなまちづくりが求められており、本市でも中心市街地の活性化を推進するため、「熊本市中心市街地活性化基本計画」を平成19年5月に策定している。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
熊本城入場者数	人/年	熊本城年間入場者数	最大の観光スポットとしての交流拠点機能が高まった結果として、1割増を目指す。	825,807	平成17年度	1,000,000	平成23年度
商店街歩行者通行量	人	平日および休日の中心商店街(計5箇所)の12時間通行量(歩行者・自転車)の合計	官民一体となった賑わいのあるまちづくりが進んだ結果として、1割増を目指す。	248,509	平成18年度	275,000	平成23年度
計画区域内居住人口	人	都市再生整備計画区域内の居住人口	暮らしやすいまちづくりが進み、人口減少に歯止めが掛かった結果として、微増を目指す。	33,820	平成18年度	34,000	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	
方針1: 熊本城の魅力をもっと高めるとともに、多くの市民や来熊者が気軽に熊本城の歴史文化に触れる機会を創出する。 ・新たな夜の観光スポットを創出するため、熊本城周辺の園路をライトアップする。 ・熊本城の築城400年を契機として、更なるお城の魅力向上を図るため、本丸御殿の復元整備を行う。 ・熊本城と調和のとれた景観形成を図りつつ、熊本城来場者の利便性向上や快適な散策を実現するため、城域周辺部を含めた環境整備等を行う。 ・築城400年記念イベントを積極的に展開し、熊本城の魅力を広く全国に発信する。また、熊本城周遊バスを運行し、来熊者の利便性向上を図る。 ・プラネタリウム投映システムの機能を増進・強化することにより、臨場感溢れる映像や動画を駆使し、復元された熊本城と一体となって、市民や観光客が楽しく歴史や文化を学べる回遊空間を形成する。	方針に合致する主要な事業 熊本城奉行丸周辺ライトアップ事業　＜基幹事業、市＞ 熊本城本丸御殿復元整備事業＜提案事業、市＞ 熊本城周辺おもてなし空間整備事業＜提案事業、市＞ 熊本城築城400年記念事業＜提案事業、市＞ 桜の馬場活用推進事業＜提案事業、市＞ 熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)整備事業＜基幹事業、市＞ 熊本博物館プラネタリウム機能増進事業＜基幹事業、市＞
方針2: 都心部への交通アクセス性の向上や賑わいと交流の場の創出による中心商店街の活性化 ・九州新幹線建設事業と並行して施行されるJR鹿児島本線連続立体交差事業に合わせ、交通拠点性を活かした東西の一体的なまちづくりを図るため、上熊本駅周辺の幹線道路の整備に取り組み交通結節機能の強化を図る。 ・熊本都市圏の内環状道路として位置づけられる子飼新大江線は、子飼橋を含む起点部分がボトルネックとなり、朝、夕にはひどい交通渋滞が発生しているため、子飼橋の架け替えを含む環状道路の整備に取り組み、都心部へのアクセス機能を強化する。 ・路上喫煙およびポイ捨て禁止対策関連事業を実施し、安全で安心できる環境の創出や環境美化整備による都市のイメージアップ・県内外からの観光客誘致等による中心商店街の活性化を図る。 ・市電軌道敷の緑化によって、熊本城の緑と連動した新たな緑の創出と、沿線の騒音低減を図り、熊本城と中心商店街間の回遊性を高め、街なかの賑わいや「森の都」熊本の魅力の向上を図る。 ・水の印象が少ない中心市街地において、親水空間の整備を行い、来熊者等に地下水都市熊本をPRするとともに、潤いと憩いの空間を創出することで、中心商店街の活性化を図る。	街路事業[都市計画道路　野口清水線外1線(段山島崎線)]　＜基幹事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　花園池亀線外1線(野口清水線・池亀)]　＜基幹事業、関連事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　上熊本駅西口線]　＜基幹事業、関連事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　新町戸坂線]　＜基幹事業、市＞ 道路事業[島崎3丁目上高橋町第1号線]　＜基幹事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　子飼新大江線]　＜基幹事業、関連事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　池田町花園線外1線]　＜基幹事業、関連事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　花園インター線外3路線]　＜関連事業、県＞ 連続立体交差事業[JR鹿児島本線]　＜関連事業、県＞ 九州新幹線鹿児島ルート建設事業[博多～新八代間]＜関連事業、鉄道運輸機構＞ 中心市街地活性化推進事業　＜提案事業、市＞ 安全・安心で美しい熊本づくり事業＜提案事業、市＞ 市電軌道敷緑化事業＜提案事業、市＞ 下通アーケード改修事業　＜関連事業、商店街振興組合＞ 地下水都市熊本空間創出事業＜提案事業、市＞
方針3: 公共交通の利便性向上や生活環境の改善による安全で安心な暮らしやすい居住空間の創出 ・老朽化した路面の舗装工事や交差点改良事業等を実施し、安全で安心な生活環境の向上を図る。 ・都市型居住地としてのまちづくりを推進するため、熊本市地域防災計画に災害危険箇所等として位置づけのある壺川排水機場の浸水対策事業を実施し、安全性の高い良好な生活環境を創出する。 ・地域コミュニティの活動拠点となる施設を整備し、地域の自主的、主体的なまちづくり活動を推進する。 ・集中豪雨時にマンホール蓋の浮上・飛散による事故が多発しているため、災害時に住民が避難する際の被害を防ぐためにも、マンホール蓋を浮上防止型に改良し、安全・安心な生活環境を創出する。 ・高齢者などすべての人が安心して移動できる交通手段である熊本市電について、路面電車優先信号を整備することにより、所要時間の短縮や定時性の確保を図り、利便性の向上を図る。 ・都市部のヒートアイランド現象を緩和するとともに、潤いのある都市空間を創出するため、屋上や壁面の緑化事業に対して助成を行い、良好な生活環境の形成を図る。 ・子飼橋周辺は、文教地区として高校・大学などが多く立地しており、自転車・歩行者の交通量が非常に多い地区である。そこで、子飼新大江線の整備に合わせ、安全に安心して通行することができる広幅員の自転車・歩行者空間の確保を図る。 ・良好な都市景観を形成し、都市の安全性を確保するため、地域に密着し市民が身近に利用できる公園を整備することにより、安全で安心な生活環境の向上を図る。	道路改良事業[壺川2丁目第1号線外8路線]＜基幹事業、市＞ 壺川地区浸水解消対策事業　＜基幹事業、市＞ 城西地域コミュニティセンター整備事業　＜提案事業、市＞ セーフティ下水道事業　＜基幹事業、市＞ 路面電車優先信号整備事業　＜提案事業、市＞ 屋上等緑化助成事業＜提案事業、市＞ 街路事業[都市計画道路　子飼新大江線(自転車・歩行者道)]　＜基幹事業、市＞ 公園事業[横手四丁目公園]＜基幹事業、市＞ 電線共同溝整備事業[城東地区]　＜関連事業、市＞ 白川緊急対策特定区間整備事業[八城橋～龍神橋]＜関連事業、国＞
その他 ○交付期間中の計画の管理について ・各種事業を円滑に進めるとともに、目標の実現に向けて確実な効果をあげるために、庁内に横断的な組織を設置し、また、「中心市街地活性化協議会」等の意見も聴きながら、計画の進行管理、事業間の調整を行う。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動について ・官民一体となって中心市街地の活性化を推進するため、「中心市街地活性化協議会」を平成18年12月に設立、「熊本市中心市街地活性化基本計画」が平成19年5月に認定されている。事業終了後においても、同協議会や熊本大学の出張研究室「まちなか工房」等と連携を図り、賑わいのあるまちづくりを進める予定である。	

都市再生整備計画の区域

熊本市都心部地区(熊本県熊本市)	面積	890 ha	区域	桜町、新市街、下通1丁目、中央街、手取本町、水道町、上通町、城東町、坪井1丁目、壺川1丁目、京町1丁目、上熊本1丁目、花園3丁目、島崎2丁目の全部 ほか
------------------	----	--------	----	--

